



生き生きとした自分を見つめるための実用生活誌

はじまりのページ

Shukokai-Magazine The page of beginning

2019 Autumn NO.49

ダイジェスト版

特集

ハスミワクチンは、 なぜ70年以上も 使われ続けているのか？

～がん治療を効果的に進めるために
知ってほしいこと～



The Note from China

中国からの手記

はじまり

生死の狭間で “生きる”に出逢う

～日本における私の肺がん治療～

特集

ハスミワクチンは、なぜ70年以上も使われ続けているのか？

～がん治療を効果的に進めるために知ってほしいこと～



ハスミワクチンが臨床の場に登場したのは1948年——。以来、70余年にわたり、15万人以上の患者さんの治療に当たってきました。ハスミワクチンは、なぜ長きにわたり、がん治療の第一線に在り続けているのでしょうか？BSL-48 珠光会 Clinic の医師・看護師・スタッフのお話から明らかにします。

多くの「抗原」を含んだ がんワクチン

「現在、がんの免疫療法が世界的に注目されており、実際がんワクチンも多数存在しています。それらのなかでも、ハスミワクチンは特別だと、私は考えています」
そう話してくれたのは、BSL-48 珠光会 Clinic の小林秀紀院長です。小林院長は長年、消化器外科医としてがん治療に当たり、2012年、自衛隊中央病院の院長から、BSL-48 珠光会 Clinic 院長に転身しました。以来、7年以上にわたり、ハスミワクチンによるがん治療に従事しています。
「要職をお引き受けるに当たり、ハスミワクチンはもちろん、他の免疫療法に関しても勉強しました。ハスミワクチンについて理解すればするほど、これはいけるという確信が膨らんでいきました」(小林院長)
小林院長が確信をもったポイントは4つあります。まずは「抗原」。抗原とは、免疫細胞が攻撃対象を認知するための目印のこと——。がん細胞には独自の目印があります。がんワクチンは、がんの目印であるがん抗原を着実に免疫細胞に認知させ、免疫力を最大限に引き出すことで、がん細胞にダメージを与え

ロボットは夢を見るか？

蓮見賢一郎 医療法人社団 珠光会 理事長

著名なSF作家フィリップ・K・ディックの小説に『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』という作品があります。1982年に映画化されたときのタイトルは『ブレードランナー』。主演はハリソン・フォードで、2017年には続編が制作されるほどヒットしました。
舞台は、第三次世界大戦後の荒廃したサンフランシスコ。警官であり賞金稼ぎのリック・デッカーは、火星から逃亡してきた8体(うち2体はすでに処分済み)のアンドロイド=人造人間を見つけ出し、処分するよう命じられます。
一見簡単な仕事ですが、この時代のアンドロイドは大変進歩しており、容姿や行動、表情などは人間と瓜二つ——。外見からでは区別できません。そんなアンドロイドを人間と見分けるために、デッカーらが用いるのが「感情移入度測定法」。刺激的な質問に対する表情の変化を検出し、感情を伴っているかどうかを判定するのです。アンドロイドには感情(心)がないとされているからです。
デッカーのストーリーは、書籍やDVDで楽しんでいただければと思いますが、ロボットが心を持つ——という設定は、さまざまな物語に繰り返し登場します。「I'll be back」のセリフで有名な『ターミネーター』や、日本漫画の金字塔『鉄腕アトム』にも、アトムが「人間と同等の心」を持つというエピソードがあります。ちなみに、アトムは「恐怖心」を覚えてしまい、

正義の味方としての役割を果たせなくなってしまうが、最後は改造した部分を壊すことで元に戻る……というオチで締められています。
さて、本誌18頁で紹介していますが、現在珠光会もロボットを開発しています。次世代型免疫療法——HITV療法では、免疫システムの司令塔と呼ばれる樹状細胞を、直接腫瘍内へ注入することがポイントになりますが、その穿孔を実施するロボットで、名前をIRIS(アイリス)といいます。IRISは開発途上にあり、実用化にはまだ年月を要するでしょう。いずれ、AI(人工知能)を搭載した自律思考するロボットにまで進化させられたら……とも思いますが、その域に達するには越えねばならない山がたくさんあります。
ところで、数年前、Googleの研究者が、画像認識に用いられる人工神経回路によって生成された、人工知能の「夢」と称する画像を公開しました。当時は画像の持つ摩訶不思議な雰囲気話題になりましたが、もちろん、それらの画像は人間が夢と見ているだけで、AIが実際に夢見た光景ではありません。
将来的に、AIが本当の夢を見るかどうかは未知数ですが、人間がロボットに夢を託すことは、今でもできます。がんで苦しむ人が、世界中どんな場所でも高水準のHITV療法を受診できる……。IRISがそんな未来図の一翼を担ってくれることが、私の夢であり願いなのです。

CONTENTS

- 2 思いの言の葉 Vol.43
ロボットは夢を見るか？
- 3 特集
ハスミワクチンは、なぜ70年以上も使われ続けているのか？
～がん治療を効果的に進めるために知ってほしいこと～
- 7 連載コミック
第44回 ほのぼのJiji・BaBa 松 & 梅
- 8 Healthy Advice
もう1歩健康になる
アドバイス 秋バテ&食中毒に陥らない——
- 11 中国からの手記
生死の狭間で“生きる”に出逢う
～日本における私の肺がん治療～
- 17 身近な食材でできる 食養生 Recipe
カリフラワーとかぶ、紫玉ねぎのピクルス
- 18 珠光会通信

健康生活の処方

る」という仕組み。抗原をどう設定するかが、ワクチンの効果を左右するポイントとなるのです。

「がんワクチンによって免疫細胞の攻撃ががん集中させるためには、ワクチンに免疫細胞が認識する抗原が必ず含まれていることが条件です。

しかし、がん細胞はさまざまながん分化・増殖していくため、ひとつの抗原ですべてのがんに対応するには無理がありました。ハスマミワクチンは、見事にその難題を克服しているのです。

ハスマミワクチンには「一般ワクチン」と「自家ワクチン」があり、一般ワクチンには、胃がんや肺がんなど、各部位ごとのがんの細胞膜から抽出した抗原が含まれています。その一般ワクチンに、患者さんの尿から分離した、患者さん独自のがんの抗原を加えたのが「自家ワクチン」です。

ハスマミワクチンには、多種多様ながん抗原が含まれているので、そのぶん免疫力のスィッチも入りやすくなっています。だから効果も期待できるというわけです。これほど多くの抗原が含まれたワクチンを、私は知りません」（小林院長）

抗原+アジュバントで効果を相乗的に高める

小林院長が推すポイントの2つ目は「アジュバント」です。アジュバントとは、どんなワクチンにも含まれている、免疫の活性を

促進する物質のこと。いくら認知度の高い抗原を用いても、免疫活性が低下していれば、免疫力は十分に活動できません。がんの患者さんは、免疫力が低下している人が少なくありませんので、アジュバントで免疫活性をアップさせることで、ワクチンをより効果的に発動させるわけです。

「ハスマミワクチンは、もともとは牛の脾臓から抽出した脂質を、アジュバントとして使っていました。蓮見賢一郎先生のお父様である蓮見喜一郎先生が、長年の研究の末に開発した安全で効果の高い製品です。現在は、それを人工的に合成したアジュバントを用いています。ワクチンは抗原とアジュバントから成り立っています。良質な抗原とアジュバントが、ワクチンの効果を相乗的に高めているのです」（小林院長）

最大の強みは、歴史

小林院長が推すポイントの3つ目は「歴史」です。ハスマミワクチンが臨床で使われるようになったのは1948年——。なんと70年以上の歴史があるのです。

これまで話題になったがん治療は山ほどありますが、ほとんどが短期間で消えてしまっています。70年以上も継続して使われているが



BSL-48 珠光会 Clinic

んワクチンは、数少ないのではないのでしょうか。

BSL-48 珠光会 Clinicの渋谷大介事務局長は、15年前から珠光会に勤務していますが、患者さんの話を聞くうちに、「歴史こそハスマミワクチンの強み」だと感じたと言います。

「驚いたのは、入職当時、すでに何十年もハスマミワクチンを愛用してくださっている方が、たくさんいらしたことです。なかには、ハスマミワクチンをはじめた頃、余命を宣告された方もおられました。そういう患者さんが、今も元気で長生きされていることは大変嬉しいし、長期間ワクチンを使い続けてくださっていることに、感動すら覚えました。

ハスマミワクチンを、とても信頼してくださっているのでしょうか。私はハスマミワクチンにかかわっていただけることを、誇りに思いました」（渋谷事務局長）

確実な効果があるからこそ、使い続けてもらえる。そして、歴史が作られる——。どんな理屈より、説得力があるのではないのでしょうか。

さらに、ハスマミワクチンの特徴としてあげられるのは、患者さんの状況に応じた使い方ができるという点。これが4つ目のポイントです。

まずは「がん予防」。毎日どんな人でも数千個のがん細胞が発生する……といわれています。免疫力が落ちれば、それらのがん細胞

は、たちまち増殖を開始するかもしれません。「健康なうちからハスマミワクチンを使っていれば、がんになりにくくなる可能性が高まります。ある程度免疫力が高く保たれている人なら、アジュバントだけでも大丈夫かもしれません」（小林院長）

がんの手術を受けた方は、再発予防のためにハスマミワクチンを使ってほしい……と小林先生は言います。完璧な手術を受けられたとしても、再発してしまうと治療は厳しくなります。再発を予防できるかどうか、がんを克服するための重大なカギとなるわけです。

「手術が成功しても、がん細胞がゼロになったとはいえません。微細ながん細胞が、血液やリンパの流れに乗り、体内に拡散していることも考えられるからです。

手術後にハスマミワクチンを用いれば、免疫が活性化され、微細ながん細胞を抑制する効果が期待できます。再発のリスクを小さくすることが可能なのです」（小林院長）

抗がん剤や放射線治療を受ける際に、ハスマミワクチンを用いることで、副作用を軽減させる効果が期待できます。さらに、進行がんの患者さんにも、ハスマミワクチンは有効だといえます。

「末期のがんと診断された患者さんが、ハスマミワクチンで延命するケースも多々ありま

す。痛みが抑えられたり、食欲が出たり、よく眠れるようになったり……と、生活の質（QOL）が改善されるからでしょう。全身に広がったがんを消すのは困難ですが、がんはあっても元気に生活している患者さんは、たくさんいらっしゃいます」（小林院長）

医師・看護師・スタッフで支える治療への道程

もうひとつ、ハスマミワクチンの効果を語る上で付け加えておきたいのが、看護師さんの働きです。

「ハスマミワクチンは、基本的に自己注射ですので、初診の患者さんには2時間ほどかけて、いねいに注射の打ち方を説明します。

患者さんは、治療をはじめから、いろいろな不安や疑問をお持ちだと思います。都内近郊の患者さんなら、当クリニックに来院していただければお応えできるのですが、地方の患者さんだとそうはいきません。そんなときのために、当クリニックでは、電話相談を開設していますが、対応は看護師の担当です。質問によっては、1時間くらい応じているときもあります」（渋谷事務局長）

その看護師より、患者さんと接するとき、最も心がけていることをお聞きしました。



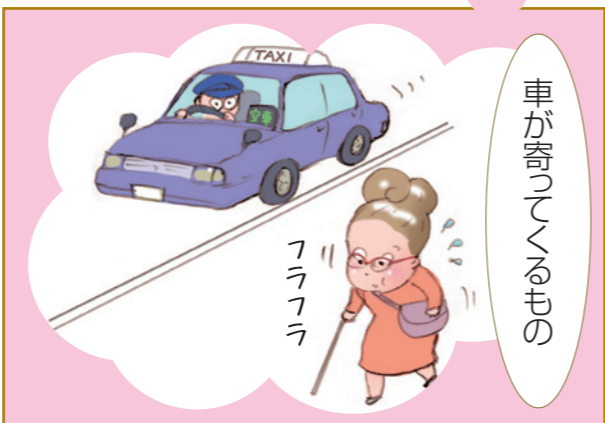
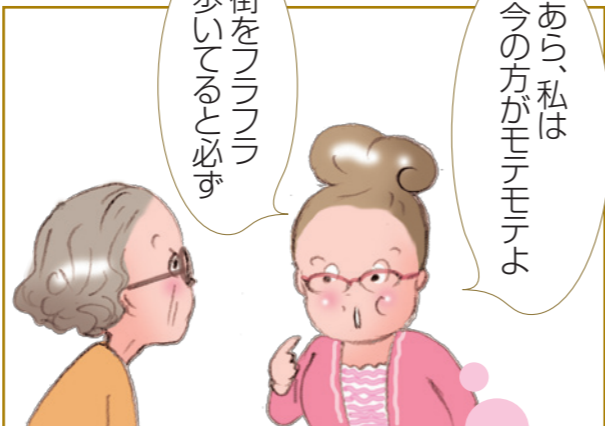
小林 裕美子

マンガ家/イラストレーター
東京造形大学・デザイン学科卒業。イラストレーターとして、実用書や児童書、雑誌、WEB媒体、新聞等に挿絵やマンガを描いている。『美大デビュー』（ポプラ社）、『もち・ぼち』（徳間書店）、『親を、どうする?』（実業之日本社）、『私、産めるのかな?』（河出書房新社）、『親が倒れた! 桜井さんちの場合』（新潮社）、『産まなくてもいいですか?』（幻冬舎）等、著書多数。

長い食事会



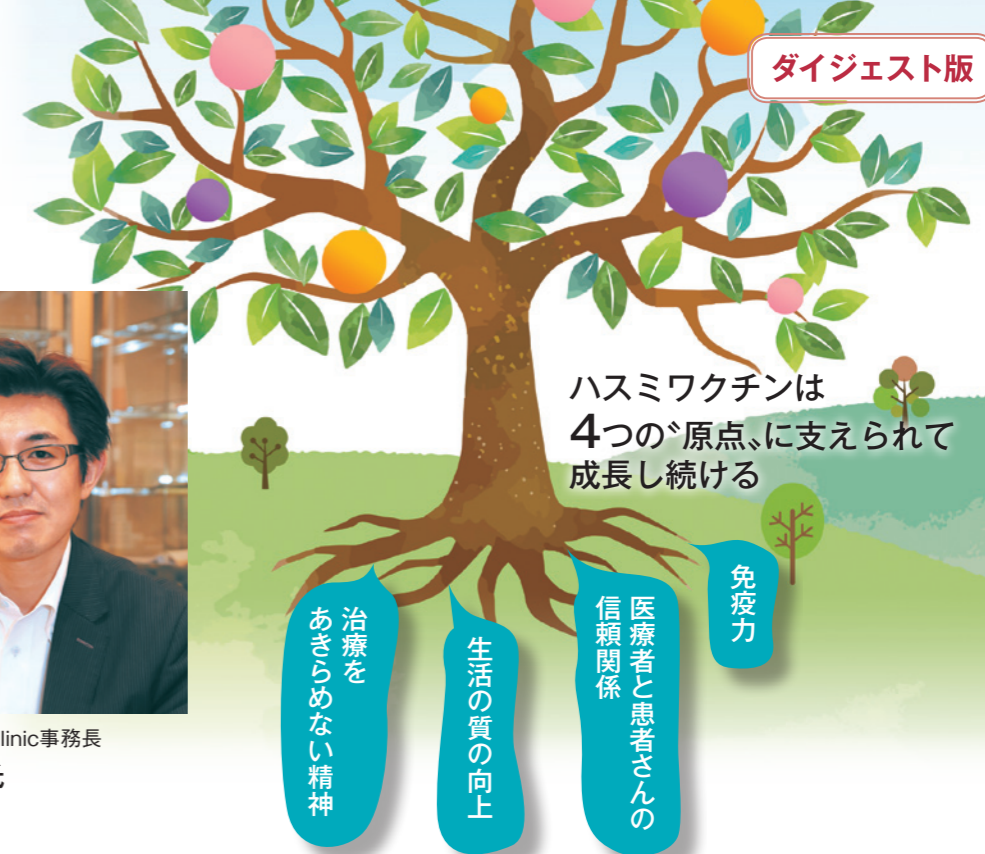
ナンパ



BSL-48 珠光会 Clinic 院長
小林 秀紀先生



BSL-48 珠光会 Clinic 事務長
渋谷 大介氏



「ハスミワクチンに限らず、さまざまな相談や質問にも回答しています。例えば食事の内容、運動の仕方、治療と仕事の両立、睡眠のとり方、熱中症やインフルエンザなどの季節柄の症状など……。日々の生活に関する相談や、主治医とのかわり方なども、時間をかけてできる限りいいいにお答えしています。患者さんのご要望にお応えすることは、私たち看護師の大切な仕事です。当クリニックを受診して良かった……と、思ってもらえることが、患者さんの安心感と相互の信頼関係につながります。安心や信頼は医療の基本ですので、現場での最重要事項として取り組んでいます」（池田看護師）

医師、看護師、スタッフの厚いサポート込みが、ハスミワクチンの治療なのです。「ハスミワクチンは、免疫力を活性化させることを、治療の出発点にしています。ですから、もともと患者さんの免疫力が極端に低下しているような場合だと、期待したほど効果が表れないことがあります。しかし、あきらめる必要はありません。どんなケースでも、治療の可能性は必ず残されているからです」（小林院長）

治療をあきらめない精神は、70余年の長きにわたり、継承され続けています。

ハスミワクチンが長期間たくさんの人に愛用されているのは、「免疫力」「医療者と患者さんの信頼関係」「生活の質（QOL）の向上」「治療をあきらめない精神」といった、がん治療の原点が、しっかりと根付いているからに違いありません。「これからは、ハスミワクチンががんの治療ばかりではなく、がん予防や健康維持のために使ってもらいたいです」（渋谷事務長）

「まずは、多くの方にハスミワクチンがどういう薬剤なのか、知っていただきたいです。使用対象者は未病から第4期までと幅広く、どのような病状でも使用することができます。自分自身の生き方に合った治療を選択するためにも、多方面から情報を得ることが大切だと思います。その手段のひとつとして、当クリニックの医療相談をご活用ください。今さら聞けないこと、より知識を深めたいこと、どんなことでも相談を承ります」（池田看護師）

◆ ◆ ◆

免疫療法と聞くと、非常に高額なイメージがありますが、ハスミワクチンは月に数万円から受けられます。がんが予防でき、再発が防げ、進行したがんも抑制してくれる可能性がある——。ある意味万能な免疫療法が70年も前からあったことに、改めて刮目させられます。

Healthy Advice.
もう1歩健康になる
アドバイス

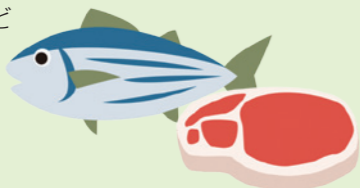
1 疲労回復に効く栄養素を摂る

食欲不振に陥ると、どうしても食事が不規則になりがち——。食事は健康を維持する基本ですので、1日3食なるべく決まった時間に食べましょう。ビタミンB1、ミネラル、たんぱく質など、疲労回復や熱量の維持に効果的な栄養素を摂るとよいでしょう。調理の際も、食べやすくするため、食材を細かく刻むなどの工夫を施せばベストです。

秋バテから脱出する4カ条

●ビタミンB1を多く含んだ食品

豚肉・そば(乾)・まだい・玄米ご飯・枝豆・かつお・まぐろ(赤身)・豆類・絹ごし豆腐など



●たんぱく質を多く含んだ食品

※肉類：生ハム・鶏ささみ・ローストビーフ・豚ロースなど
※魚介類：イワシ丸干し・いくら・焼きたらこ・するめなど
※卵類：卵黄・ピータン・ゆで卵、生卵など
※大豆製品：納豆・がんもどき・厚揚げ・豆腐・豆乳など
※乳製品：ヨーグルト・牛乳・チーズ類など

●ミネラルを多く含んだ食品

※カルシウム：小魚類・牛乳・乳製品・ほうれん草など
※亜鉛：牛肉・卵・豆類・カキ(貝)など
※カリウム：昆布・ひじき・緑黄色野菜など
※鉄：レバー・ひじき・卵黄など



2 有酸素運動で体温調節機能を高める

夏場は外出を控えたいのも道理——。結果、発汗が減少し、体温調節機能の低下を招いてしまう場合も少なくありません。毎日

短時間でよいので、体を動かす習慣をつけましょう。有酸素運動※1でお手軽なのはウォーキング。心のリフレッシュ効果もあるのでお勧めです。1日30分歩けばベストですが、無理することなくマイペースで続けてください。



3 入浴でリラックス

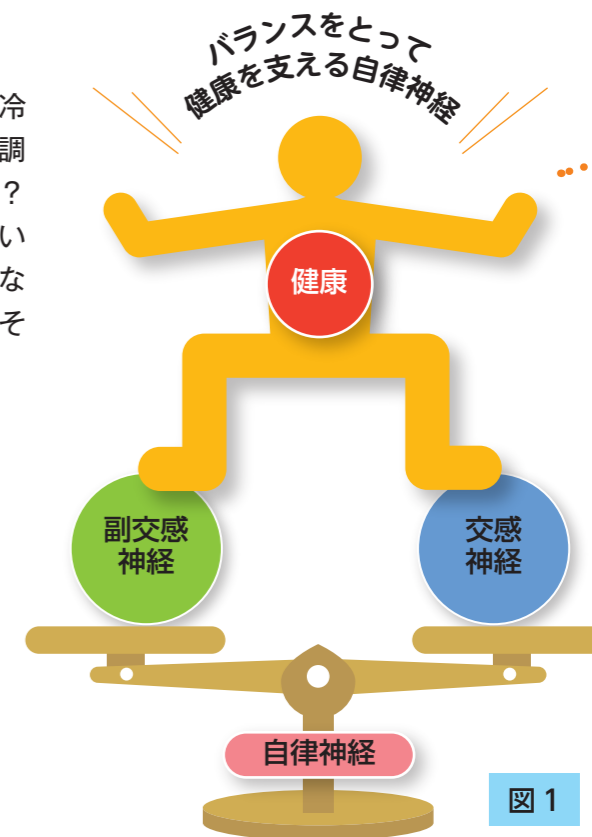
入浴には血行を促すことで、硬直した筋肉を和らげる効果があります。また、温熱作用によって皮膚の毛細血管や皮下の血管が広がり、体内の老廃物などが排出されやすい状態になるという利点もあります。

一日をリラックスして終えるためにも、入浴タイムは不可欠なひと時——。ただし、冬場はヒートショック※2に注意しましょう。



秋バテ&食中毒に陥らない——健康生活の処方

うだるような夏が遠のき、吹き寄せる風にも冷気が滲む頃——。気候は快適なのに、なぜか体調がイマイチ……と、感じた経験はありませんか？もしもYesなら、あなたは「秋バテ」に陥っているのかもしれない。今回の「もう1歩健康になるアドバイス」は、秋に罹りやすい健康不順とその脱出法について解説します。



季節の変わり目に要注意

「食欲がわかない」「体がだるい」「やる気が出ない」……等々、秋になっても夏バテのような体調不良が続いているのなら、「自分は秋バテにハマってしまったのだ……」と、自覚してください。

秋バテは多くの場合、自律神経の乱れが原因で生じます。自律神経とは心臓や血管、内臓などに分布し、生命維持に関係する神経の総称——。「交感神経」と「副交感神経」に分かれ、一方が働いているときはもう一方が休むというように、互いにバランスを取りながら健やかな体調を維持しています(図1)。

この交感神経と副交感神経のバランスが崩れやすいのが、いわゆる「季節の変わり目」。夏の間、冷房の効きすぎや、冷たい食事・飲み物の摂りすぎで、ただでさえ体調が乱れがちなところ、思いのほか厳しい寒暖差のせいで、自律神経の均衡が一気に崩壊してしまうのです。特に高齢者は体調を調整する機能が衰えている場合があるので、一度秋バテに陥ると回復まで時間がかかることも少なくありません。

しかし、心配することなかれ。次の4カ条を実践すれば、速やかに秋バテから脱出することができます。

※1 有酸素運動：ウォーキングやジョギング、水泳、サイクリングなど、一定の時間継続して行う運動のこと
※2 ヒートショック：気温の変化によって血圧が乱高下し、心臓や血管の疾患が起こること。具体的には、脳内出血や大動脈解離、心筋梗塞、脳梗塞などの病気を指す。冬場、暖房の効いたリビングから寒い脱衣所に移動し、浴槽に入るときなどに生じる場合が多い

The Note from China

中国からの手記

生死の狭間で “生きる”に出逢う

～日本における私の肺がん治療～



作：魯名(LU MING・ロウミン)
翻訳：中島 晨紅(蓮見癌研究所)

東京のICVS東京クリニックでHITV療法を受けた中国人、魯名さんが、当時の体験を手記にまとめて送ってくれました。がん治療を受ける身にとって大切なことが、たくさん盛り込まれています。魯名さんが望む通り、これからがん治療を受ける方、現在治療中の方、みなさまのより良い受診にお役立ていただければ幸いです。

4 質のよい睡眠をとる

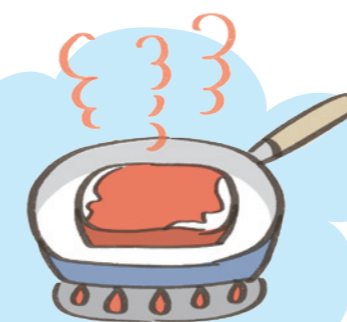


休息を司る“副交感神経”が優位に働いているとき寝入ると、質のよい睡眠がとれます。逆に、日中あった出来事を思いだすなど、脳が覚醒状態になる“交感神経”優位な状態のまま眠りにつくと、睡眠時も興奮状態が続き、脳が休まりません。入眠の1～2時間前にお風呂で体を適度に温め、本を読んだり、静かめの音楽を聴いたりして、心穏やかに眠りにつくことが大切です。

食中毒予防の 3原則

細菌をつけない

調理や食事の前にはきちんと手を洗い、食材や調理器具を清潔に保つ



細菌をやっつける

食材はよく加熱すること。調理器具は熱湯や塩素系漂白剤で殺菌すること



細菌を増やさない

購入した食材はすぐ冷蔵庫へ。早めに食べ切ること



秋には「食中毒」にも要注意

食中毒というと夏場を連想しますが、実は9月～10月にかけて最も多く発生していることを

ご存知ですか？その理由のひとつに挙げられているのが「免疫力の減退」。秋バテによる体力低下に加え、温度変化に体温調節機能が追いつかず、結果、免疫力の落ち込みを招いてしまうわけです。

次の「食中毒予防の3原則」を守り、食中毒を寄せ付けない生活を心がけましょう。同時に、秋バテから脱出し、免疫力の向上に努めることが肝心です。



私は喫煙歴が長かった……。

いつの頃からか咳が出るようになりました。けれど、工場の仕事が忙しく、また、むかしはスポーツ選手だったこともあり、健康に対して人一倍自信を持っていたため、検査を怠っていました。2018年の後半ぐらいでしょうか。咳は益々ひどくなり、やがて普通の咳止め薬では抑えられなくなり、ひどいときは金属音のような咳きえ出るようになりました。

ある日の夜中、激しい咳の後、痰のなかに血が混じっているのを発見しました。翌日、愕然としたまま病院へ……。そして、忘れもしない2018年9月20日。受診した浙江大学第一附属病院の医師から、末期がんだと告げられました。気管支閉鎖を伴う進行性左肺腺がん、左肺門縦隔リンパ節に転移しているというのです。

多くの患者さんと同様、私も手術でがんを切除することを考えました。しかし、腫瘍は6.9×6.8cmという、私の想像をはるかに超える大きさでした。医師に「腫瘍が大き過ぎ、かつ危険な位置にあるため、治療法は放射線と抗がん剤しかない」といわれ、一瞬、頭が真っ白になりました。まるで死が目の前に横たわっているような感じでした。

一

放射線、抗がん剤に対して、私は多くのがん患者さん同様、強い恐怖感を抱いていました。もつとも恐れていたのは、治療費ばかりがかさみ、治療がはかどらないこと。そして、自身の免疫システムが機能不全に陥り、死が予想以上に早く訪れることでした。

私は妻と一緒に北京や上海などの医師や専門家を訪ね、アドバイスを求めました。しかし、医

二

師たちは一様に「放射線、及び抗がん剤療法は必須です。しかし、生存率は極めて低いでしょう」と答えるのみ。そうこうしている間にも、病状は悪化していきます。胸骨が尖がるように浮き出て、鋭い痛みが断続的に四肢を引き裂きました。胸や背中疼痛は24時間絶え間なく続き、私は一晩中眠れないまま寝返りを打ち続けました。

暗闇のなかでもがき続ける毎日……。しかし、ある日親戚の一人から有望な情報もたらされました。ある上場会社の社長の父親が私の病状と似たがんで、医師から3〜6カ月の余命宣告されたにもかかわらず、日本で治療を受けてから1年たった今、ほぼ正常に回復したというのです。普段はよく杭州市のあちこちを散策し、友達とマージャンを楽しんでいるそうです。8時間続けて遊ぶこともあり、息子さんに注意されても、いうことを聞かないぐらい元気だといっています。

私は百方手を尽くして、その社長の父親の連絡先を入手しました。恐る恐る電話すると、患者同士で相通じるものがあつたのか、電話の向こうの彼は思いのほか協力的でした。自分の体験はもとより、日本のどんな病院で治療を受けたのかも教えてくれたのです。

まさか身近にこのような治癒例があるとは思ってもありませんでした。一条の活路を得た気がして受話器を置き、日本へ治療に行く、と心のなかでつぶやきました。

治療のために日本へ渡るといふ決断は、私の一生を左右するほど重大なものだったことを、当時の私は知るよしもありませんでした。私の決断は自身の生命のみならず、家族に対しての責任をまっとうすることにもつながったのです。

私の治療データを、日本と中国で医療サービスを行っているJIMS株式会社（以下JIMS）が翻訳し、日本のICVS東京クリニックへ送ってくれました。このICVS東京クリニックこそ、

くだんの人物が受診した病院でした。しかし、意気揚々と渡日の準備を終えた頃、青天の霹靂といえる通知もたらされたのです。

ICVS東京クリニックが「治療はお受けできません」といつてきたのです。ICVS東京クリニックが実施するHITV療法という免疫療法は、プロトコルが明確に決められており、受診の対象となるのは腫瘍径が5cm以下……。私の腫瘍は5cmを超えていたのです。

私は腰が抜けて座り込みました。日本の治療に一縷の望みを託していたのに……。最後の希望の扉を、神様に閉じられてしまったような気分でした。

しばらく茫然とした後、私はJIMSに電話をかけてこう言いました。

「ICVS東京クリニックに対しては、一切の責任を問わない。日本での治療がただ一つの希望なのだから、ぜひ助けてほしい。結果はどうであれ、試してみたい……」

まさに百折不撓……。ついに日本側は、私が抗がん剤治療を受けていないことを考慮し、受診を受け入れてくれたのです。私は治療率が30%しかないことを、理解しなければなりませんでしたが。

三

2018年10月25日、私は妻に付き添われ、高鳴る胸を抑えながら東京・羽田空港に到着しました。

出迎えてくれた曹さんというJIMSの通訳に案内され、車で30分くらいのホテルにチェックイン……。翌日の朝、曹さんに連れら

※2 HITV療法：東京のICVS東京クリニックで施術されている次世代型の免疫療法。本誌18頁を参照
 ※3 HITV療法では、抗がん剤治療を受けずに受診した方が治療率が上がるということがわかっている

※1 浙江大学第一附属病院：浙江大学（せつこうだいがく、Zhejiang University）は、中国の浙江省の省都である杭州市の西湖区に位置する国家重点大学。第一附属病院は、医学部の7つある附属医療機関のうちのひとつ

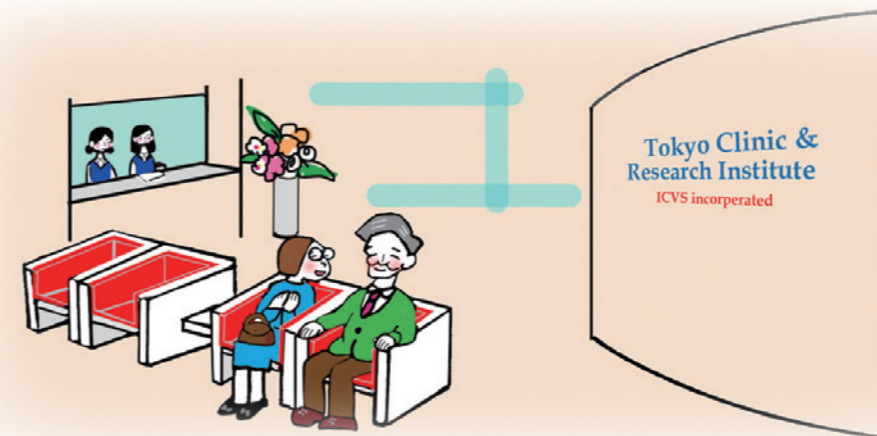
れて、ついにICVS東京クリニックの門をくぐりました。クリニックは大きな施設ではありませんでしたが、室内はとても明るく温かい雰囲気。たくさんのお患者さんが家族などに付き添われ、静かに順番を待っていました。

やがて診察室に呼ばれ、主治医である蓮見先生と対面しました。優雅で紳士的、穏やか……。それが蓮見先生の第一印象でした。先生は微笑みながら、私の話にうなずいてくれました。その瞬間、緊張が解け、がちがちだった体が嘘のようにリラックスしたことを覚えています。

私が病状について話した後、蓮見先生が今後の治療計画を説明してくれました。——まずは薬剤を用いて病巣を小さくさせる。それからトモセラピー^{※4}と樹状細胞療法を併用して腫瘍の根絶を目指す……。

わかりづらい箇所は、先生が図解で教えてくれました。付き添ってくれた曹さんの努力もあって、難しい免疫細胞の作用などもスムーズに理解することができました。ちなみに、曹さんは若い男性ですが、落ち着きと慎重さを持っており、私に大きな安心感を与えてくれました。何度かの治療を通じて信頼関係を築き、まるで家族のような付き合いをすることができました。

蓮見先生が腫瘍を小さくさせるために選んだ薬剤は「イコチニブ^{※5}」といます。がん細胞などの表面にあるたんぱく質や遺伝子をターゲットとして働く「分子標的薬^{※6}」であり、高い効果が期待でき



る薬です。

1ヵ月後、腫瘍は明らかに縮小しました。しかし、副作用もひどくなりました。イコチニブの主な副作用は下痢ですが、私の場合はさまざまな症状が現れました。例えば足のむくみや歩行障害など……。普通なら5分の距離を、20分かけて歩くほどでした。

蓮見先生は私の症状に合わせ、治療計画を調整してくれました。イコチニブを中止して、代わりに抗がん剤を3クール実施。腫瘍が3cmくらいに縮小したら、放射線療法を行うと説明してくれました。

2018年11月、1ヵ月間の培養期間を経て、自身の免疫細胞の準備が整いました。いよいよ本格的に始まるのだ……。そんな思いに、私は心を躍らせました。

免疫治療をスタートさせた当時は、私はまだ咳をしていたので、蓮見先生はリスクを軽減させるために、私の同意のもと、睡眠導入剤を使ってCT誘導下の処置を行いました^{※6}。画像で確認しながら腫瘍内に樹状細胞を注入したのです。ICVS東京クリニックの医師から「樹状細胞によって誘導されるT細胞のCTL細胞^{※7}は、がん細胞に対して強い攻撃力を持っている」と教えられました。

2018年12月6日、抗がん剤を担当する医師から説明を受けました。日本では病院に専門の薬剤師がおり、薬物に関する説明もしてくれます。

私の質問にもきちんと答えてくれて、おかげで緊張を和らげることができました。

抗がん剤治療の1回目は、3日間の入院が必要でした。翌7日の午後、胃の調子が悪くなり、水さえ飲めない状態になってしまいました。なんとか乗り切れたのは、付き添ってくれた曹さんのお陰だと思っています。日本の看護師さんも4時間ごとに病室を見回って、私の状態を確認してくれました。

抗がん剤と並行して樹状細胞療法を行っていたせいか、体調は短期間で上向いていきました。樹状細胞療法は睡眠、食生活などのQOLの向上、抗がん剤の副作用の軽減に極めて有効な役割を果たしてくれたと思っています。

四

2018年9月の初めから2019年1月末までに、計4回、日本へ行って治療を受けました。2019年の最初に受けたPET-CTの検査報告書は、この半年間、私たち家族に覆いかぶさっていた黒雲をかき消してくれるものでした。——腫瘍が5cmくらいまでに縮小したということです。まだ救いがあると……。耐えた苦痛は無駄ではなかったのだと思うと、涙を抑え切れませんでした。

2019年の春節、わが家は「禍を転じて福と為す」という幸福感でいっぱいでした。がんと宣告されたとき、「お正月の太陽を見ることはない」と覚悟していたのですから。

春節後、私は治療のために日本へ向かいました。今回受診するのは、樹状細胞療法と放射線療法のコラボレーションです。曹さんが最新の放射線治療——トモセラピー^{※4}について解説してくれました。

トモセラピーの場合、治療中の痛みや出血などはなく、同時に複数のがん病巣に対して照射を行えるので、私のように転移が認められる患者には、もっとも適した照射方法だといえます。

放射線治療計画を確定するための面談を受けた際、転移があるとされる部位について尋ねると、担当の青木幸昌先生(Clinic4)は照射が必要となる部位をひとつひとつ確認して、放射線がどのよう



※6 CT誘導下の処置：CTで状況を確認しながら、極細針を用いて樹状細胞を腫瘍へ届ける作業。18頁参照
 ※7 CTL細胞：細胞傷害性Tリンパ球。がん細胞に対して強い殺傷能力を持っている

※4 トモセラピー：強度変調放射線治療（IMRT）に分類される治療方法。腫瘍への高い線量集中度・均質性を維持しながら、正常組織への被ばくを抑制できる特徴がある

※5 細胞の培養：採取した自分の樹状細胞を、細胞培養室（CPC = Cell Processing Center）で培養する。HITV療法には、この培養した樹状細胞を用いる

身近な食材で
できる

Shoku
you
jyou
食養生 Recipe



カリフラワーはブロッコリーの変種でアブラナ科の食材です。アブラナ科に多い抗酸化物質を多く含みます。かぶは消化を助け、玉ねぎは血の巡りを良くします。紫玉ねぎの色素はアントシアニンでポリフェノール的一种です。

カリフラワーとかぶ、紫玉ねぎのピクルス

材料(2人分×3)

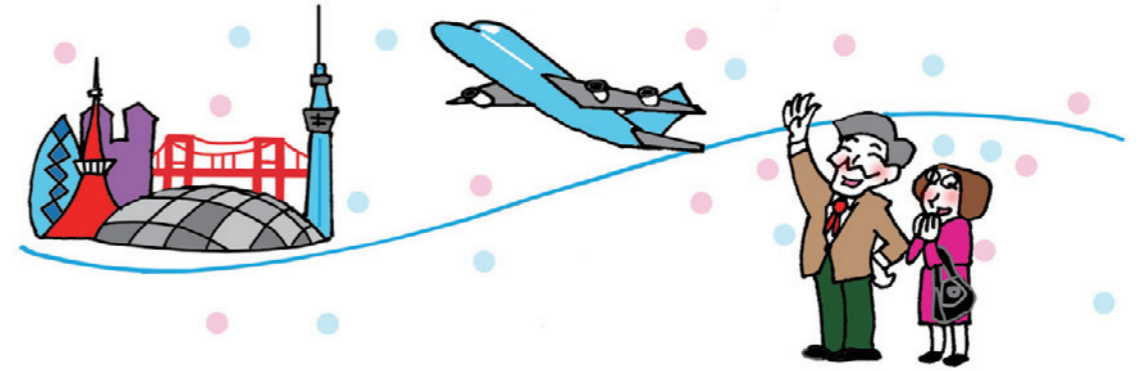
- カリフラワー.....1/2株
- かぶ.....大1個
- 紫玉ねぎ.....1個

- 漬け汁
- 酢.....50ml
 - 白ワイン.....50ml
 - 水.....50ml
 - 塩.....小さじ1
 - ローリエ.....1枚
 - 粒こしょう.....6~7粒
 - 赤トウガラシ.....1本
 - はちみつ.....大さじ1~2

作り方

- 1 漬け汁のはちみつ以外の材料を鍋に入れ、火にかけ、沸騰したら火を止める。
- 2 カリフラワーは洗って1cm 大に切り分け、かぶは皮をむき、横半分に切り、8分割にする。紫玉ねぎも上下を切り落としてかぶと同様にし、全てをガラスまたはホーローの容器に入れる。
- 3 1が冷めたら、はちみつを加えてよく混ぜ、2の野菜の上に回しかける。
- 4 3の野菜の上に皿を載せ、重しをして3時間ほど置く。
- 5 煮沸消毒した保存容器に4の中身を漬け汁ごと入れて冷蔵保存する。

*ピクルスは1週間ほど保存できます。



私は天命を知る年になって、不治の病にかかり

五

初回の放射線治療の当日、初めは少々緊張しましたが、看護師さんが私に保温用の毛布を用意してくれたことをきっかけに、徐々にリラックスしていききました。

放射線照射の所要時間は、わずか20分間。驚いたのは、副作用が少ないことです。放射線治療前期、放射線開始から3日間は、少々のだるさ、食欲不振を感じた以外は、普段と変わらず。これは私が認識していた放射線治療とは、まったく違っていました。4日目、5日目になると疲労感が出たものの、治療後自力でホテルまで戻ることができました。

6月6日のCT検査報告では、私の腫瘍はさらに3.3cmまで縮小し、新しい転移巣も確認できず——ということでした。

そして、6月の検査報告から約1ヵ月後の7月4日、蓮見先生との面談の際「肺の腫瘍はすでに1.5cmまで縮小しています。治療前に複数あった転移巣にも、大きな改善がみられます」と告げられました。喜びのあまり、妻と顔を見合わせて泣きました。

ました。治療の経過を振り返ってみると、何回も心身ともに疲れ果て、万念灰に帰す瞬間の連続でした。しかし、その合間にも心がぱっと晴れて、わくわくするような時間もありました。今では人生の貴重な経験になったと思っています。

治療の過程で調子がよくなったり、悪くなったり……そんなことの繰り返しですが、幸いなことに、私の腫瘍は日々小さくなっていきます。それが治療を継続する力を与えてくれていきます。

日本のがんの最先端治療を身をもって体験する機会に恵まれ、とてもラッキーでした。海に落ちた泳げない人が、救命ボートに助け上げられたような気分……とでもいえばよいのでしょうか。私は生きる希望を見つけることができました。

2019年は、私のがんと戦いはじめて2年目の年——。依然として定期的に渡日し、治療に専心する日々です。私は運がよく、生と死の選択に際し、生命の救い主と素晴らしい治療法に出逢うことができました。

私の体は日々治癒しています。私は、私と同じどん底に突き落とされ、病気に苦しみながらさまざま患者さんたちと、体験を共有したいと考えています。

私の経験が、みなさまのお役に立つことができれば、それ以上の幸福はありません。

終

Report

名古屋で蓮見賢一郎先生講演会が開催

●HITV療法からハスミワクチンまで横断的に語る

さる9月28日(土)、名古屋市の名古屋国際センターにおいて、米国人蓮見国際研究財団理事長蓮見賢一郎先生の講演会が開催されました。

蓮見先生が名古屋で講演するのは17年ぶり——。久方ぶりのせい、あいにくの曇天にもかかわらず、会場はほぼ満員の盛況でした。

蓮見先生が選んだ今年の講演テーマは『がん治療の新時代——免疫療法を中心に据えた治療計画』。がん治療を受ける際、なぜどんな標準治療より

免疫療法が優先されるのか、さらに、免疫療法を治療計画の中心に据えると、なぜ速やかな治癒が促されるのか……等々、がん治療を効果的に進めるために、知っておかねばならない知識を、わかりやすく解説してくれました。



蓮見賢一郎先生

途中、蓮見先生のお父様で、ハスミワクチンの開発者である蓮見喜一郎先生の逸話

も披露されました。喜一郎先生はハスミワクチンの研究過程で、未知のウイルスを発見したのですが、そのウイルスが子宮頸がんの原因として有名な“ヒトパピローマウイルス”である可能性が高い……というのです。ちなみに、ヒトパピローマウイルスの発見者であるハラルド・ツァ・ハウゼン教授(ドイツのウイルス学者)は、この研究がもとで2008年にノーベル医学・生理学賞を受賞しています。喜一郎先生は臨床が多忙を極めたため、研究を中止してしまいましたが、もしそのままウイルス探査の旅を続けていたら……。あるいはと思わせるのは、喜一郎先生の持つ格別な先見性のせいかもしれません。



会場となった名古屋国際センタービル

講演会終了後の質疑応答も活発に行われました。来場者の質問でやり取りが続いたのは、ハスミワクチンの投与間隔について——。ハスミワクチンは原則5日ごと(中4日)に投与します。しかし、この間隔は絶対的なものではなく3日ごと、7日ごと、10日ごとなど、患者さんの病状などによってフレキシブルに設定可能です。投与間隔でご質問、ご要望のある方は、BSL-48 珠光会 Clinic の医師、看護師と相談してください。

HITV療法からハスミワクチンまで、珠光会の免疫療法を横断した講演会は、名残惜しい余韻にひたったまま幕を下ろしました。



会場風景